

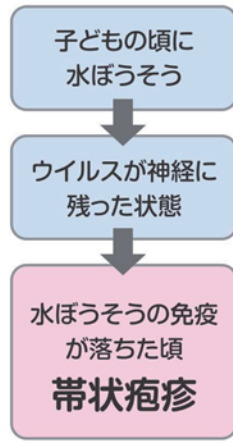
診療最前線

皮膚科

— 带状疱疹ワクチンについて —

■ 带状疱疹とは？ ■

带状疱疹にかかったことがある方は少なくないと思います。ひどい痛みで悩まされたこともあるでしょう。実は、带状疱疹は体内に残った水痘（水ぼうそう）のウイルスが原因です。多くの方は子どもの頃に水ぼうそうにかかっているでしょうから、ほぼすべての方は带状疱疹にかかる可能性があるのです。



■ 带状疱疹の後遺症

— 特に神経痛について —

带状疱疹で特に深刻なのは『带状疱疹後神経痛』です。治療が遅れるほど、年齢が上がるほど神経痛が出やすい傾向があります。



带状疱疹による発疹

身体の片側に発症し、痛みを伴う場合がある

ます。患者さんによっては、人生を棒に振るほどの深刻な痛みで悩まされている方もいます。特にお尻あたりに带状疱疹が発症した方に、排尿や排便の障害（尿や便が出にくくなる障害）がしばしば見られます。

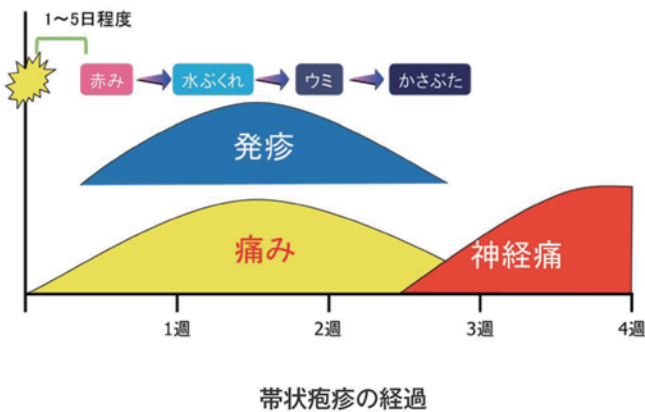
さらに最近の研究では、带状疱疹が認知症リスクの上昇に関わっているとの報告が出てきています。このように、带状疱疹は様々なリスクを抱えた疾患であり、かからない方がよい疾患

であることは間違いないと思います。

■ 带状疱疹の治療 ■

带状疱疹治療の原則は、早期治療に尽きると思います。そもそも、抗ウイルス効果のある飲み薬はウイルスの増殖を抑えるものであり、ウイルスの量を減らすことができない場合が多く、時間が経ってウイルスが増えてから治療を始めても高い効果は見込めません。

内服開始の理想は、発疹（皮膚の赤みや水ぶくれなど）が出



る前です。体の片側にだけ痛みがあるようなときは、带状疱疹の可能性も考える必要があります。ただし、発症初期に痛みがない带状疱疹もあり、痛みの有無だけでは診断できない場合もあります。早期治療は意外に難しいのです。

■ 带状疱疹ワクチンについて ■

带状疱疹に対するワクチンには「乾燥弱毒生水痘ワクチン（ビケン）」と「乾燥遺伝子組み換えワクチン（シングリックス）」の2種類があります。有効性には大きな差があり、特に乾燥遺伝子組み換えワクチンは、接種の初期には90%を超える発症抑制効果が認められており、11年後でも高い効果の維持が確認されています（乾燥弱毒生水痘ワクチンの効果は5年後で50%程度）。

その一方で、2つのワクチンには5倍ほどの価格差があります。ただ、乾燥遺伝子組み換えワクチンは長期的に確かな発症抑制効果が維持されることを考えると、こちらの接種が推奨されます。

■ 定期接種でどう変わるのか

公費での定期接種は65歳時の1回のみです。ただし、2029年3月までの5年間は、65歳を超える方を救済するための経過措置があります。期間中に、70/75/80/85/90/95の各年齢に達する方と、2025年度だけは100歳以上のすべての方が対象となります。



公費での定期接種は『生涯一度のチャンス』です。65歳になる年に接種を見送った場合、70歳で再度定期接種の機会は来ないのです。せっかく安価に接種できるのですから、効果のある乾燥遺伝子組み換えワクチンを選択するのが良いと思います。公費負担の金額は自治体により異なります。詳しくはお住まいの市町村にお問い合わせください。

数多くの带状疱疹患者さんを診てきた立場からは、このような疾患には、かからないのが一番良いと常々考えておりました。

不幸な経過をたどる患者さんを少しでも減らすためにも、積極的な接種が求められます。接種をご希望の方は、内科外来・皮膚科外来にご相談ください。

(皮膚科部長 瀧澤好廣)

65歳を過ぎたら 推奨されるワクチン



高齢者に推奨されているワクチンとして、带状疱疹ワクチンのほかに、肺炎球菌ワクチン、インフルエンザワクチンおよび新型コロナウイルスワクチンが挙げられます。ワクチン接種により肺炎球菌、インフルエンザウイルスおよび新型コロナウイルスによる重症な肺炎などを予防することができます。

いずれのワクチンも当院で接種することができますので、接種を希望される方は主治医にご相談ください。

詳しくは以下の
ウェブサイトを
ご覧ください



▲厚生労働省
「65歳以上に
実施している
予防接種」